
僕らと彼女と喫茶店。

萌歌

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

僕らと彼女と喫茶店。

【Nコード】

N8537Z

【作者名】

萌歌

【あらすじ】

万事屋銀ちゃんを出て、右に曲がって100mぐらい進む。そしてまた左に曲がると、そこには不思議な不思議な喫茶店があった。

設定&前書き（前書き）

始めちゃいました！新・連・載

でもかなり不定期になると思われます。

では設定どうぞ！

設定&前書き

主人公

紫陽しやう
憂麻ゆうま

年齢：27

身長：163

喫茶「紫陽花」を営む

幾松とは親友

サバサバした性格

少々言葉遣いが粗い

けっこう大雑把

極親しい人にしか名字を教えない。普段は「憂麻」とだけ名乗っている

喫茶 紫陽花

知る人ぞ知る名店

コーヒーなどの定番メニューから、軽食まで揃っている

建物は2階建てで、1階は店、2階は憂麻の自宅

かぶき町にある

突発思いつき連載なので、かなり不定期になるかと思われます。

&番外編的な感じでもう一つの連載のオリキャラが出るかもわからない。

あくまでメインはもう一つ。

頭の中にフツとネタが浮かんできたら書く程度です。

あーでも、これに関しては活動報告とかで「こんな話が見たい！」
っていうリクエストを取るかもです。

その時はよろしく願いたいします。

設定&前書き(後書き)

まだまだ未熟者で、連載を両立するとなるとかなり遅いペースになってしまします。

でも、頑張りますので憂麻共々よろしくお願いいたします！

「んー、何と云うか……まあこの子かなりマイペースだから亀より遅い更新ペースだけど、それなりによろしく。」

へっ？それなりに？

「当たり前でしょ。本文でそう書いちゃったんだから。あくまでメインはあつちだからなー！」

……はい。頑張ります。

序章（前書き）

序章です！

相変わらずgoodです。

意味わかりませんww

序章

万事屋銀ちゃんを出て、

右に曲がって

100mぐらい進む。

そしてまた左に曲がると、

そこには不思議な不思議な喫茶店があった。

「ん〜っ、やっぱり憂麻の作るカフェオレは絶品だね。」

「そう？ありがとうございます。」

「そういえば、店のメニュー増やしたんだって？何追加したんだい？」

「うん、ちょっとしたお菓子をね。クッキーとかマフィンとか。」

「へえ、食べさせてよ。」

「いいけど、そのかわりまた宣伝頼んだよ、幾松。」

「分かってるよ。紫陽花にも来てて、北斗心軒にも来てるお客さんに伝えとけばいいんでしょ。」

「うん。……あつ、そういえばさ。」

「何？」

「最近、北斗心軒行ってないね、アタシ。」

「……ああ、そういえば。」

「また今度行くね？」

「いつでも来てよ。」

「ありがとう。」

そう言って、目を合わせてカウンター越しに微笑み合う二人。

その姿はとても画^えになっていて、綺麗だった。

「んじゃ、ごちそうさま。」

「お粗末様でした。」

幾松は、カウンターにお金を置くと立ち上がり、「またね。」と言って扉の向こうに消えた。

憂麻はそれを見送ると、カップを手に取りゆっくりと磨き出す。

「いらっしゃいませ。」

しばらくして新たな客が入ってくると、彼女は顔を上げ、微笑んでこう告げた。

彼女の新たな一日が、今日も始まるうとしている

序章
e
n
d

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8537z/>

僕らと彼女と喫茶店。

2011年12月29日21時49分発行